

令和7年度 後志教育研修センター 調査研究事業報告会

学習指導調査研究委員会



令和8年1月8日

於：後志教育研修センター

本報告の骨子

- 1 研究の概要と推進計画について
- 2 研修講座について
- 3 検証授業について
- 4 指導案バンク、オンデマンドについて
- 5 今年度の成果と課題について
- 6 来年度に向けて

Ⅰ 研究の概要について

研究主題

授業力の向上 と 校内研修の在り方

子どもたちが
生きていく社会

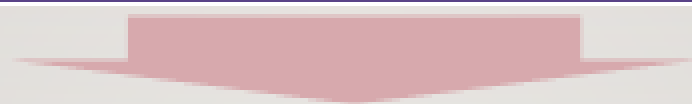
子どもたちに
求められる力

求められる
授業像

研究の方向性

【仮説1】

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための授業改善に向けて、授業づくりの指針を示すことで、管内の授業づくりに寄与することができる。



【視点1】

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための授業改善



【内容】

・研修講座(授業づくり・授業改善) ・検証授業 ・指導案バンク

【仮説2】

教職員自身が学び続ける姿勢を大切にする研修を行うことに、工夫、改善を共有することで、研修づくりの一助になることができる。



【視点2】

教職員自身が主体的になるための研修の工夫と改善



【内容】

- ・研修講座（校内研修）
- ・検証授業

【研究計画】

【1年目】

- ・ 研究の方向性と仮説の構築主題設定の理由および研究視点の明確化（令和6年度）

【2年目】

- ・ 1年目の課題に基づく実践の具体化（令和7年度）

◎視点1：授業改善の具現化「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す検証授業の実践

◎管内の授業づくりの指針となる「指導案バンク」の収集・整理

◎視点2：研修の在り方の再構築

◎教職員が主体的に学び続けるための研修講座による情報発信

◎アンケートや実態把握に基づく、今後の授業改善に向けた研修の在り方の検討

【3年目】

- ・ 3年間の調査・研究の総括（令和8年度）

実践の成果をまとめ、管内の授業力向上に向けた最終的な提言へ 1 年目

2 研修講座について

(1)「校内研修」

(2)「学習指導（授業づくり）」

(3)「学習指導（授業改善）」

(1) 5月28日 研修講座「校内研修」講義I

「令和の日本型教育を担う教師の姿」

○学び続ける教師

※中央教育審議会(文部科学省)より

効率的・効果的



ファシリテーター

校内研修

- 学びを支える主体的な姿勢
- 個別最適な教師の学び、協働的な教師の学び
- 適切な目標設定・現状把握、積極的な「対話」
- 学びの成果の可視化と組織的な共有
- 質の高い有意義な学習コンテンツ

「令和の日本型教育を担う教師の姿」

○質の高い有意義な学習コンテンツ

- 1: 明確な到達目標の設定⇒有意義な学びとなる
- 2: 各々の学びが特定のテーマにそって位置づけられ
入門・基礎・応用・発展が整理されている
- 3: 大学院や教育委員会等による研修の活用
- 4: ワンストップ的なプラットフォーム
- 5: 「現場経験」を重視した学び(OJT)

校内研究チャート

研究組織づくり

(1) 研究主題・副題の設定



(2) 研究仮説の設定



(3) 研究構想の確立

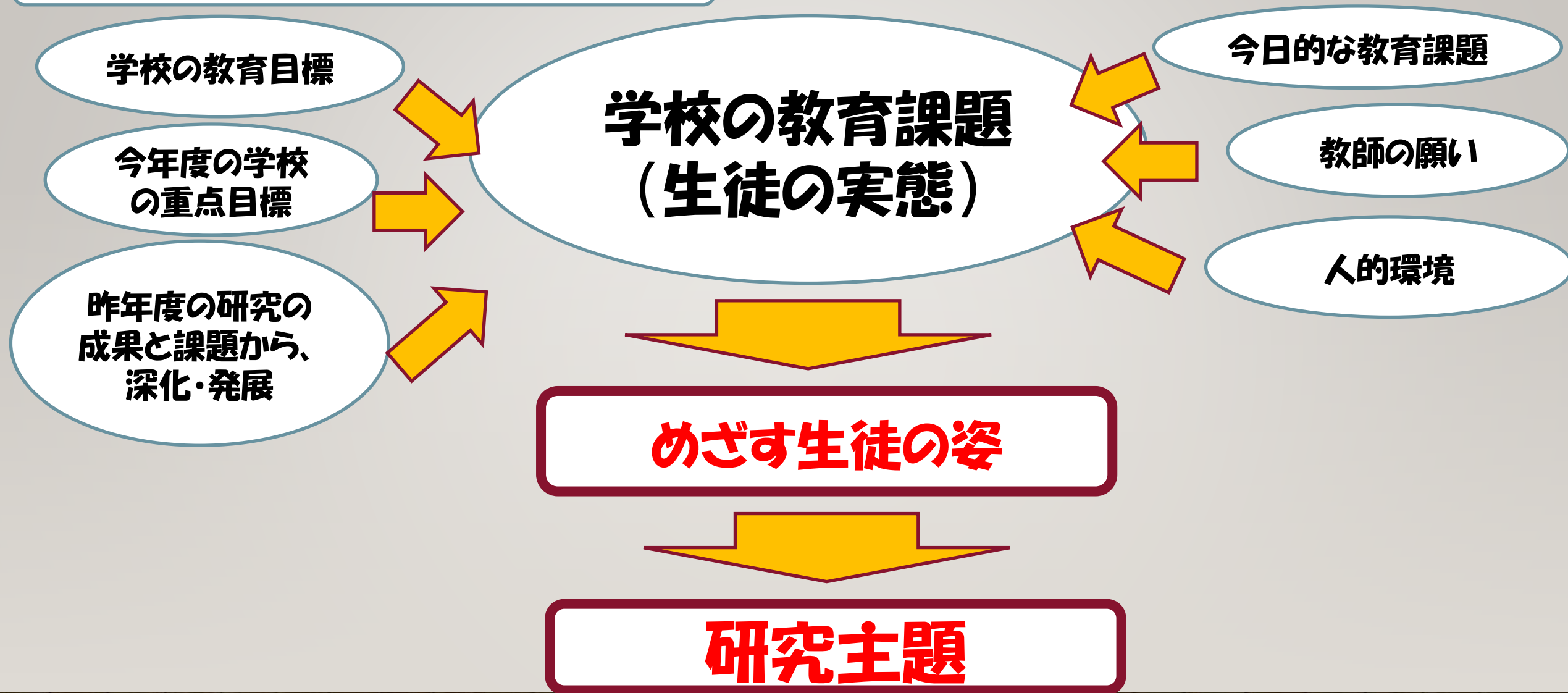


(4) 授業実践



(5) 研究の検証・まとめ・つなげる

(1) 研究主題・副題の設定



(1) 研究主題・副題の設定

3つの要素

主語は
「教師」

① 目的(生徒の成長)

「～の育成」「～を求めて」等

② 対象(研究の領域・分野)

「～における」「～の研究」等

③ 内容・方法(研究の手立て)

「～を通して」等

(1) 研究主題・副題の設定

例①

主題

①目的(生徒の成長)

①自分の考えを豊かに表現する生徒の育成

副題

②対象(研究の領域・分野)

～②国語科における

③言語活動の指導の工夫・改善を通して～

③内容・方法(研究の手立て)

3つの要素

①目的(生徒の成長)

「～の育成」「～を求めて」等

②対象(研究の領域・分野)

「～における」「～の研究」等

③内容・方法(研究の手立て)

「～を通して」等

(1) 研究主題・副題の設定

例②

3つの要素

①目的(生徒の成長)

「～の育成」「～を求めて」等

②対象(研究の領域・分野)

～における」「～の研究」等

③内容・方法(研究の手立て)

「～を通して」等

主題

①目的(生徒の成長)

- ① 自己成長能力・課題解決能力をはぐくむ
- ② 個別最適な学びの充実

②対象(研究の領域・分野)

副題

- ～③ 自らの学びを選択する場面と自らの成長を
感じるができるふりかえりを通して～

③内容・方法(研究の手立て)

(2) 研究仮説の設定

3つの要素

① 取り組む場面

「～において」

② 具体的な手立て

「～することにより」

③ 目指す姿、生徒像

「～となる(であろう)」

(2)研究仮説の設定

例

研究主題

自分の考えを豊かに表現する生徒の育成
～各教科における言語活動の指導の工夫を通して～

研究仮説

- ①交流の場面において、
②ペアワークやグループワーク、
全体交流などを効果的に位置づけることにより
③集団の中で自分の考えや想いを話したり伝えたりすることが
できるようになるだろう。

3つの要素

①取り組む場面

「～において」

②具体的な手立て

「～することにより」

③目指す姿、生徒像

「～となる（であろう）」

①取り組む場面

「～において」

②具体的な手立て

「～することにより」

③目指す姿、生徒像

「～することにより」

(3) 研究構想の確立

めざす生徒の姿

どんな学習を
強調するか

声かけの
内容

ICT
(映像支援等)

学習活動に
関わる構想

どんな学習を
積み重ねて
成長を促すか

授業内容に
関わる構想

正負の乗法を
小学校のかけ算に例えよう

手立てに
関わる構想

動きやリズムゲーム
を取り入れよう

(3)研究構想の確立

★全体で構想を統一する

【メリット】

- ①研究の積み上げがしやすい。
- ②設定した内容（ICT等）を得意としている教員のリードを期待することができる。

【デメリット】

- ①興味の無い・苦手な教員にとっては、
研究意欲が減退する場合がある。
- ②取り上げた内容のみで
無理に生徒の育成をしようとしてしまう。

★それぞれの構想で進む

【メリット】

- ①各教員が自分の興味、関心をもっている内容で主題に迫ることができるので、
研究意欲がわきやすい。

【デメリット】

- ①見通しが持てない教員が出てきやすい。
- ②共通理解を十分行わないと
研究成果が拡散しまとめるのが困難になる。

(3) 研究構想の確立

効果的で効率的な構想図や
仮説を検証するためのシートを作成



共通理解を図ることや
研究成果のまとまりにつながる

(4) 授業実践



学
習
指
導
案
作
成

オ
リ
エン
テー
ション

事
前
協
議

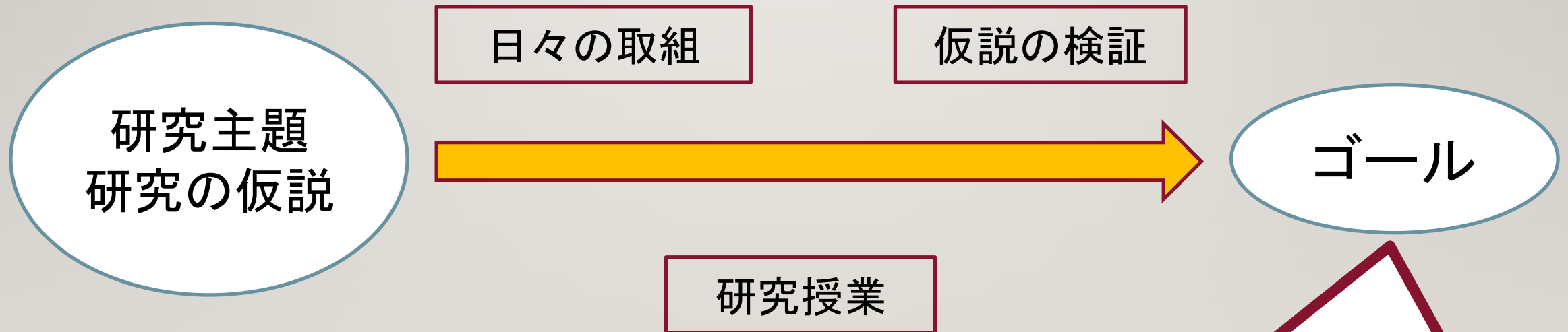
研
究
授
業

事
後
協
議

授
業
実
践
の
ふ
り
か
え
り

(5) 研究の検証・まとめ・つなげる

校内研修の**ゴール**は「成果」と「課題」！



見いだすための手順・見通しが重要

(5) 研究の検証・まとめ・つなげる

見いだすために手順・見通しが重要

例

(1) 研究主題・副題の設定

(2) 研究仮説の設定

(3) 研究構想の確立

(4) 授業実践

事前・事後調査
を活用する。

- ・教師から見た生徒の観察
- ・子供に対する授業評価
- ・学力検査・全国学力調査

アンケート

授業を通して、
データを収集する。

- 生徒の成長の記録
- ・生徒のプリント
- ・授業実践記録

ICTを利用した
ワンストップ的
データ収集と整理

研究仮説の成果・課題を見いだす。

(5) 研究の検証・まとめ・つなげる

- ・「各年度の成果と課題」を見いだす



- ・「成果と課題」を深化し分析する



- ・「改善策」を考えて、次年度以降に実践する



- ・「新たな課題と成果」が見つかる

以上のことを行うことで

成功体験



やり
が
い

※さいごに研究推進計画の作成について

○計画の年数は3年が目安

- ・計画の変更が必要な場合もある・・・
柔軟に計画を変更し主題に迫れる。
- ・短いと成果が見られる前に終わる。
※教員と生徒の努力が実りづらい
- ・長いと教員方の入れ替えの影響が
大きくなってしまう。

※さいごに研究推進計画の作成について

例

1年次

基盤づくり

- ・新テーマ策定
- ・研究体制の確立
- ・仮説や視点の理解
- ・授業実践
- ・成果と課題の共有
- ・次年度重点の明確化

2年次

深化・充実

- ・新テーマ確定
- ・研究の重点確認
- ・授業協力者を招き
授業実践
- ・実践の積み上げ
- ・成果と課題の共有

3年次

発展

- ・実践発表会開催による外部の評価
- ・研究のまとめ
- ・主題・副題・視点の見直し
- ・年次研究の立案

まとめ

① 主題⇒仮説⇒実施⇒検証⇒まとめの流れが重要

※すべてに具体的な設定理由と取り組みを示し共通理解を図る

② 時代の変化への対応やよりよい成果を生み出すための状況に応じた柔軟な対応が重要

③ 教員の負担を減らし、時間を生む
ICT等を利用した効率的・効果的な環境整備

④ 教員にも意欲を生むためのきっかけ・環境が重要

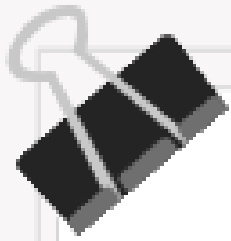
成果と課題

【成果】

- ・研修全体を通して、初任者から中堅まで幅広い教員が、研究の基礎を体系的に理解できたこと

【課題】

- ・さらに参加者の実態に迫るため、事前アンケートを取り入れた講座づくりが必要



(2)6月20日 研修講座「学習指導」(授業づくり)

—— [PRESENTATION] ——

研修講座 授業づくり

子どもを主語にした授業作り

研修センター

1単位時間の授業づくりについて

【1 単位時間で授業をつくる場合】

①どの教科でも、**単元（本時）の目標**を明確にし、
単元全体のイメージをつかむ！（ゴールを決める）

【例：大造じいさんとがん（単元目標）】

◎物語の山場をみつけ、読みを深める

- ・心情を読む力
- ・情景を読む力
- ・山場を見つける力

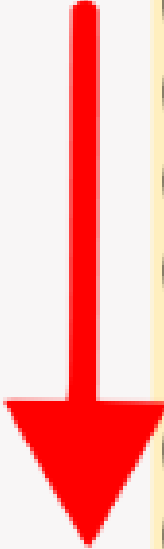
教科書や
指導書から
指導事項を
探す！

大造じいさんを教えるのではなく、
大造じいさんを通じて**国語の力**をつける

【1単位時間で授業をつくる場合】

- ②ゴールが決まったら、ゴールから逆算して単元計画を考える → **1単位時間にすべきことが見えてきます！**

【単元計画（例）】

- 
- (6)大造じいさん（残雪）に手紙を書く
 - (5)物語の山場はどこだ？！
 - (4)残雪のプライドを感じた場面ランキング
 - (3)大造じいさんの気持ちが表れている好きな情景描写
ランキング
 - (2)じいさんの気持ちが表れている場面ランキング
 - (1)はじめの感想を書こう



◎物語の山場を見つけ、読みを深める

- ・心情を読む力
- ・情景を読む力
- ・山場を見つける力

【1 単位時間で授業をつくる場合】

(7)単元の振り返り！単元で身についた力は？

or

「この時間で身についた力は？」

「この先のどんな場面で活用できそう？」

を毎時間の振り返りの視点に入れる

何のために学習するのか、どんな力が身についたのか
子ども達にも意識してもらう！

【1単位時間で授業をつくる場合 まとめ】

- ①単元のゴール（身につけさせる力）を定める
- ②ゴールに向け、1単位時間ごとに何を学ばせるか考える
→ 1単位時間のゴールはなに？
- ③今日の授業ではどこを（どこまで）ゆだねる？
・時間の使い方 ・課題の解決方法 などなど
- ④学習を振り返る（身についた力は？）

【授業づくりの上で大切なこと】

- ・なぜこの学習をするのか
 - ・どんな力を身につけるのか？
- を教師が理解して授業作りをすること

【成果】

- ・初任段階の先生方で、普段できない悩みの交流を行うことで明日からの実践に役立つきっかけとなった
- ・子どもを主語にした授業づくりについての考え方を共有することができた

【課題】

- ・小中学校の先生方の偏りを少なくする講座のもち方について検討する必要がある

(3) 9月17日 研修講座「学習指導」(授業改善)



余市町立大川小学校
第5学年 算数ぐんぐんコース
算数「分数の大きさ」とたし算、ひき算
授業者：所員 中島佳美

～講座の目的～

自己の課題をもとにして、
授業改善の視点を明確にしながら、より良い授業づくりについて研修する

- ・ 授業改善における13の視点
- ・ ラーニングマウンテンの活用
- ・ 習熟度別での指導

授業改善の13の視点

堀田龍也先生
(東京学芸大学
教職大学院教授)

- ・ 授業改善や主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教師の手立てと授業改善の視点の関係性を重視した研究を提唱

- ・ 授業改善における13項目の視点
もともとは東京都教育委員会の13の視点
堀田先生が学習者の思考や活動の質に焦点を当てて分類

主体的な学びに関する授業改善の視点

学ぶことに興味関心を持つ

自己のキャリア形成の方向性と関連付ける

見通しを持つ

粘り強く取り組む

自己の学習活動を振り返り次につなげる

対話的な学びに関する授業改善の視点

子供同士の協働を手掛かりに考える

Aペアや班で考える
B学級全体で考える

教職員や地域の人との対話を手掛りに考える

先哲の考え方を手掛りに考える

多様な表現方法を用いて対話する

深い学びに関する授業改善の視点

知識を相互に関連付けてより深く理解する

情報を精査して考えを形成する

問題を見いだして解決策を考える

思いや考えを基に創造する

学習過程における 1 3 の視点

| | 課題把握 | 課題追究 | 課題解決 | 振り返り |
|------|---|---|-----------------------------------|--|
| 主体的 | <div>1 学ぶことに興味関心をもつ</div> <div>3 見通しを持つ</div> | <div>4 粘り強く取り組む</div> | | <div>2 自己のキャリア形成の方向性に関連付ける</div> <div>5 自己の学習活動を振り返り次につなげる</div> |
| 対話的 | | <div>6 子供同士の協働を手掛かりに考える</div> <div>6 ペアや班で考える</div> <div>7 教職員や地域の人との対話を手掛かりに考える</div> <div>8 先哲の考えを手掛かりに考える</div> <div>9 多様な表現を用いて対話する</div> | <div>6 学級全体で考える</div> | |
| 深い学び | | <div>11 情報を精査して考えを形成する</div> <div>12 問題を見出して解決策を考える</div> <div>13 思いや考えを基に、創造する</div> | <div>10 知識を相互に関連付けてより深く理解する</div> | |

興味や関心を高める

学びの山を使うことで
児童の意欲を引き出す

協働して課題解決する
多様な情報を収集する
多様な手段で説明する

小→全体交流 積極的な発言

①

②問題をつかむ

数値が表す大きさ（量）
を捉えられるよう配慮

③課題を提示する

④見通しをもつ

同分母分数の加減計算は
既習であることを想起

⑤自力

⑥小交流・全体交流

なぜ通分をする必要が
あるかを理解させる

⑦まとめをする

⑧振り返り

学びの山に書き足す
よう促す

○本時の目標（ねらい） 分数の加法の計算のしかたを理解する。

○指導の留意点や準備物・掲示
・提示されている数値の大きさを適切に捉えさせ、つながら解決できるよう指導する。

・リットル図などを活用して、適切に理解したり説明したりできるよう配慮する。

準備物…クロームブック（学びの山提示）、黒板掲示用問題シート



ラーニング・マウンテンとは？



大妻女子大学教授

樺山 敏郎 氏 が提唱

単元や題材のまとまりを
“山登り”に例え、
学びを見える化したもの

学びの見通しをもつ

それぞれの子どもが
自身の学びを最適化
学習の個性化
指導の個別化を実現

大川小 5年2組 算数【単位量あたりの大きさ】学びの山

わかる・できる

単位量あたりの大きさや速さの意味や表し方について理解し、求めることができる。

考える・あらわす

単位量あたりの大きさに着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考えることができる。

活用する

粘り強く考えたり、学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

ゴール！
普段の生活の中で、
『お得！』をゲットだぜ！！

ミッション2 速さ

時速...1時間に進む道のりで表した速さ
分速...1分間に進む道のりで表した速さ
秒速...1秒間に進む道のりで表した速さ
速さを求める式
「速さ＝道のり÷時間」
進む道のりは、速さおかかる時間から、
「道のり＝速さ×時間」で求められます。
かかる時間は、進む道のりと速さから、
「時間＝道のり÷速さ」で求められます。
これらのものがややこしくてわからないときは、
「木の下のはじめくん(木の下のはげた爺)」と覚える
と良い

最終ミッション！

～たろうさんを救え！～
たろうさんは駅に待ち合わせをしていたが、間に合うか心配していた。計算した結果、太郎さんは間に合わないことが判明。急ぎ足にしなければならぬ結果となった。

ミッション1 単位量あたりの大きさ

人数÷シート＝一枚あたりの人数
シート÷人数＝一人あたりの面積(枚数)
公倍数で計算して、手間がかかる計算法をやるよりも、わり算の式で計算した方が、**早く、簡単**に、**正確に、どんなときでも**できるので、効率が良い。
(はかせどん)単位量あたりの大きさ
→「一人あたり～」や「1㎡あたり～」など1あたりいくつで表す大きさ
人口密度
1平方キロメートルあたりの人口を表す
人口÷面積(平方キロメートル)

大川小5年ぐんぐんコース算数【分数の大きさとたし算、ひき算】

わかる・できる

分数の意味や性質を理解し、分数の大きさを比べたり計算したりすることができる。

考える・あらわす

分数の意味や性質に着目し、分数の大小のくらべかたや計算のしかたについて考えたり説明したりすることができる。

活用する

粘り強く考えたり、学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

ゴール！
『分数の変身』おたすけ
スーパーマン！

分数の引き算ができた！
やり方は足し算の時と一緒に、**分母が違うときは通分する、大きさ比べをするときはもう1回通分する**

分母の違う分数の足し算は通分してから計算する。
分母が揃っていない場合は通分する！
大きさ比べをする場合はもう1回通分する！

約分ができた。
分子と分母を公倍数でわる。
より小さい数になるまで～

いろいろな形の足し算を正しく解けた。
ポイント～約分できるときは約分する。
ポイント～整数同士、分数同士で計算すると良い。

通分ができた。
もとの分母の公倍数(最小で)

分数の大きさを正しくとらえることができた。
分母が同じ～ 半分より～ 分子が同じ～

【大川小における共通認識】

※単元の内容や学年の実態に応じて、柔軟に構成・活用

国語⇒単元の始まりに、児童らの考えをもとに、学級全体で作り上げた上で進めていく。

算数⇒毎時間のまとめや振り返りをもとに、理解したことや考えをまとめながら、作り上げる。

【活用例】

- ・拡大して教室掲示し、授業の始まりと終わりで全体共有
- ・児童が各自、クロームブックで加除修正しながら学習

- ・児童が各自で手元に持ち、確認しながら学習など

成果と課題

《成果》

- ・『13の視点』や『ラーニングマウンテン』を元に授業改善の視点を提案することができた。
- ・協議を通して、授業改善の方策や個々の課題について参加者同士の交流を促すことができた。

《課題》

- ・初任段階層の参加者が多く、幅広い年齢層の参加者を募ることができれば協議を深めることができた。
- ・交流がグループ内だけにとどまり、小中やグループ間で参加者の声を全体共有する場面を設定していなかった。

3 検証授業について

1 0月24日（金）実施
倶知安町立倶知安小学校
5年生 菅原 涼平教諭 算数科



3 検証授業について

研究主題

授業力の向上と校内研修の在り方
～子ども主体の授業づくりを通して～

3 検証授業について

視点1

主体的な学びを支える「単元構想」と「課題設定」の工夫

視点2

ねらいに迫るための「学習スタイル」の選択と活用

視点1

主体的な学びを支える「単元構想」と「課題設定」の工夫

単度量当たりの大きさ

単元の目標＝これができるようになる。

- ・速さなど単度量当たりの大きさの意味と表し方を理解し、それを求めることができる。
- ・違う種類の2つの数量の関係に着目し、大きさを比べたり表現したりする方法を考えることができる。
- ・違う種類の2つの数量の関係について粘り強く考えたり、学習したことを生活や学習にいかそうとしたりできる。

第2ステージ

- ⑥ だれが一番速い？
- ⑦ 速さはどのように求める？
- ⑧ 速さの単位が違う時にはどのように比べる？
- ⑨ 走る道のりはどのように求める？
- ⑩ かかる時間はどのように求める？

第3ステージ

- ⑪ 学んだことを使って考えよう。
- ⑫ まとめ
- ⑬ テスト

第1ステージ

- ①② こみぐあいはどうに比べる？
- ③ 町のコミグアいはどうに比べる？
- ④ どうすればとれ具合が比べられる？
- ⑤ 単度量を使って求めよう。



学びの到達点を 明確に位置づけた単元計画

視点1

主体的な学びを支える「単元構想」と「課題設定」の工夫



視点1

主体的な学びを支える「単元構想」と「課題設定」の工夫

5年1組 算数

本時の目標

異種の二つの数量の関係に着目して、単位量当たりの大きさの比べ方や表し方を考えることができる。

10/24

金曜日

5時間目

「数学的」な見方・考え方

⇒事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

主な活用ICTツール



その他 ()

① 問題提示

「よくとれた畑」について考え、重さだけは比べられないことに気付かせる。

② 課題把握

③ 課題解決③

個人思考&交流を通して

単位量あたりの大きさ

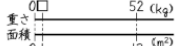
問題：畑でじゃがいもを育てました。どちらがよくとれた畑といえるでしょうか。

東小学校 西小学校
52kg 36kg

| | 重さ(kg) | 面積(m ²) |
|------|--------|---------------------|
| 東小学校 | 52 | 13 |
| 西小学校 | 36 | 8 |

1 m²あたりの重さ

東小
重さ
面積

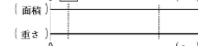


$$52 \div 13 = 4$$

4kg

1 kgあたりの広さ

東小
(面積)
(重さ)



$$13 \div 52 = 0.25$$

0.25m²

西小

重さ
面積



$$36 \div 8 = 4.5$$

4.5kg

西小

(面積)
(重さ)



$$8 \div 36 = 0.22\ldots$$

0.22...m²

答え 西小学校の方がよくとれた

まとめ：1あたりの大きさで比べるとよい。

④ 共有③

それぞれの比べ方で、よくとれたといえるのは数値が大きい方が小さい方かを確認しながら進める。

⑤ まとめ

⑥ 振り返り③

→スプレッドシートに記入

⑦ 練習問題

B評価

異種の二つの量の関係に着目し、単位量当たりの大きさの比べ方を考えている

A評価

異種の二つの量の関係に着目し、単位量当たりの大きさの比べ方を考え、説明することができる。

評価場面は③で記載

評価基準を焦点化し、
学びのゴールを可視化した
課題設定

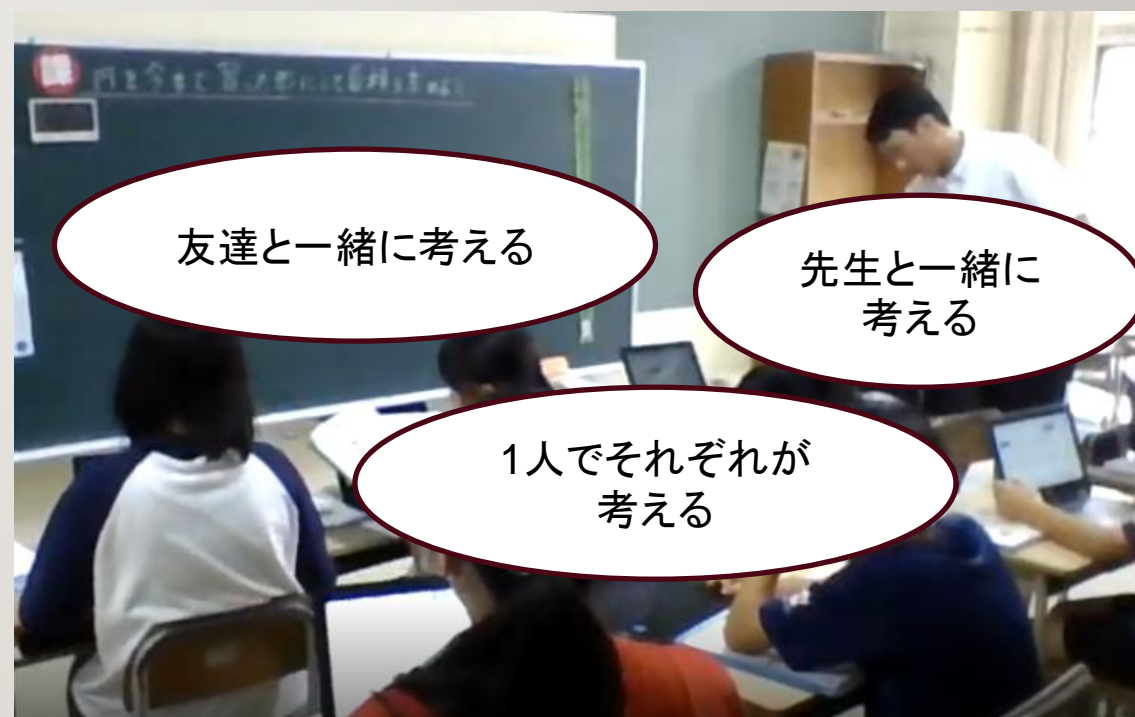
視点2

ねらいに迫るための「学習スタイル」の選択と活用



解決意欲の喚起

子どもの「やってみたい！」を引き出す
場面設定と課題提示の工夫



柔軟な場づくり

思考の深まりに合わせ、個人・集団・
共有のマネジメント力

調査研究委員会での話し合いについて

『目標と評価の関係性』

熊坂主任指導主事からのご助言

・「B評価」となる児童像の具体化

→

・教師自身が「到達イメージ」を明確に持つこと

・「支援の提示」と「子どもの自発性」の
バランスの再検討

→

・前時までの既習事項の定着度確認の重要性

緻密な授業構成と、深い児童理解に基づく関わり

4 オンデマンドについて

| | |
|----------|-----------------------------|
| 5月28日(水) | 校内研修 |
| 7月 3日(火) | ミドルリーダーによる カリキュラム・マネジメント |
| 8月19日(火) | 学校経営Ⅱ(教頭) |

◆外部講師による公開講義
をオンデマンド配信

…都合により参加できなかった場合でも講義が視聴可

4 指導案バンクについて

指導案コンテンツの閲覧方法

☆下記のリンクから後志教育研修センターのフォルダ内にある小学校・中学校に進んでいただき、閲覧してください。

https://siribesi-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/skc_siribesi_onmicrosoft_com/EuNfHewiwBlLu5NDqLq21CwBrTFuRR3jaRIQ6-cC64M4ig?e=oeuGt4

☆右のQRコードからも閲覧が可能です。



5. 研究の成果と課題

成果

- ・ 研究の方向性や進め方を所員全体で共有できた
- ・ 研究内容への共通理解を図ることができた
- ・ 研修講座を相互参観し、改善点を協議できた

課題

- ・ 研修後の実践や変化の把握ができていない
- ・ 研修成果を検証する実態調査が必要である
- ・ 検証授業を所員主体で実施する体制づくりが必要である

6. 来年度に向けて

この1年を通して…

子どもの「興味・関心」や
「問い」を大事にした授業

北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会

6. 来年度に向けて

**「子ども」が主語
必要感のある課題設定
必要感のある単元（題材）計画**

北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会

後志管内各校の
OJTに寄与できる
研修センターを目指して…

令和7年度後志教育研修センター 調査研究事業報告会

学習指導調査研究委員会

ご静聴ありがとうございました。



令和8年1月8日

於：後志教育研修センター